

国立科学財団 (NSF) の国立科学審議会、「2012 年科学工学指標」発表 (1 月 17 日)

国立科学財団 (National Science Foundation : NSF) の政策策定を行う組織である国立科学審議会 (National Science Board : NSB) は、米国内外における科学・工学分野での雇用状況、教育活動、経済状況などに関する年次データ集「2012 年科学工学指標 (Science and Engineering Indicators 2012)」を発表した。これによれば、これまで米国が世界を牽引してきた科学技術分野における研究開発支援については、アジアにおける投資額が増加しており、近々米国の投資額を追い抜く可能性があるという。さらに世界の科学技術分野における米国の研究開発シェアは 1999 年から 2009 年の 10 年間で 38%から 31%に減少したのに対し、中国、インド、インドネシア、日本、マレーシア、フィリピン、シンガポール、韓国、台湾、タイのアジア 10 カ国によるそれは 24%から 35%に増加したという。また、2008 年から 2009 年の一年間には中国における研究開発が 28%増加し、日本を抜いて米国に次ぐ世界第 2 位となっている。

なお、2012 年科学工学指標は

<http://www.nsf.gov/statistics/seind12/>よりダウンロード可能。

National Science Foundation, *New Report Outlines Trends in U.S. Global Competitiveness in Science and Technology*

http://www.nsf.gov/news/news_summ.jsp?cntn_id=122859&WT.mc_id=USNSF_51&WT.mc_ev=click